



日本的経営の基盤

令和7年7月8日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

社員に対する思いやりと経営という現実、日本の特性であり、これら優れた企業文化が創造性を得、優れた企業を実現する。

これらは合理主義という現実に対して異なる文化が存在するものとする。

これら日本の風土は、企業文化をはぐくむ。これらが日本のビジネス社会の源流である。

これらは今日完全な岐路に自己を有する。それらがグローバリズムという潮流である。これらは西洋の合理主義における世界の現実なのである。

これら和という経営が日本的な経営の基盤である。

これら現実において日本社会は完全に2分化しているのであり、アメリカなどにおける先端性への追随は、既存日本の現実を否定するものである。

しかしこの日本的善の経営は、効率化とシステム化、創造性において、未来を求めるとき必ず正しい企業基盤なのである。

他方において西洋陣営においても優れた企業は必ずこの善の経営を有するものであることは理解できるものである。

西洋という先端性への追随は、彼らが新たな未来を模索することへの現実であり、それら技術やシステムの進歩性は共有の企業基準である。

これらは文化の根本性の相違における偉大な葛藤であり、日本という社会が直面する今日の現実である。

しかし人間としての美德や本性は変わるものでなく、それら視点は優れた企業経営は西洋と東洋を問うものでないとする。